

エゼキエル書 39 章 21-29 節

使徒言行録 1 章 《1-7》、8-14 節

ヨハネによる福音書 17 章 1-11 節

先週の木曜日、昇天日を迎えました。本日は昇天後主日でもあります。復活されたイエス様は、天に昇られたのですが、特禱にあります通り、それはわたしたちも天に昇らせて、わたしたちを天に迎えてくださるためです。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。」(使徒 1:11) とある通り、イエス様の時代も今も、天は見上げる空と同じです。ただし、イエス様の時代、人々はその空の先に主なる神様がおられる場所がある、と考えていましたが、現代のわたしたちはもうそのようには考えません。大気圏の外、宇宙のどこかに主なる神様がおられるわけではないからです。しかし、天を、人間が住んでいる場所ではなく、主なる神様がおられる場所ととらえる点は同じです。

イエス様が天に昇られたという記述がある福音書はルカだけです。本日の福音書はヨハネですので、イエス様が天に昇る箇所ではありませんが、「イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。」(17:1) とある通り、イエス様が天を見上げる箇所です。そして、「天を仰いで言われた」とは、イエス様が祈りを捧げたことを示しています。

イエス様が祈る場面は、他の福音書でもありますが、ここにある祈りは、ヨハネ特有の部分です。聖書日課は、1 節から 11 節までですが、17 章全体が祈りです。そしてその祈りは三つの部分から成っています。イエス様ご自身のための祈り (17:1-5)、弟子たちのための祈り (17:6-19)、そして後の教会のための祈り (17:20-26) です。また、これらのイエス様の祈りには、「栄光」、「聖別」、「一つになる」の三つの主題があります。

最初にイエス様は、「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください」(17:1) と祈ります。イエス様は、それまでも栄光を現していました (2:11、11:4、11:40、12:28 など)。それゆえ、ここでは初めて栄光が現されるというよりも、改めてということになります。ただし、イエス様が現す栄光とは、主なる神様の栄光であり、栄光を表す目的も示されます。それは「あなた(主なる神様)からゆだねられた人すべて(信仰者)に、永遠の命を与えること」です (17:2)。「永遠の命」とは何か? という問いが生まれると思いますが、それに対しても「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを(彼らが・信仰者が)知ることです。」(17:3) と明確に答えています。

イエス様が、ご自分の祈りの中で、「イエス・キリストを」と語るのは、少しおかしな表現です。このような物語世界を飛び出す表現は、ヨハネ福音書の特徴です。物語世界を超えて、読者の世界で大切な事柄を直接示すのです。すなわち、ヨハネ福音書がここで語っている「永遠の命」とは、物質でも場所でもなく、また物語世界にある何らかのイメージでもなく、神様は主、唯

お一人であり、その方に遣わされた方がイエス・キリストであることを知るといふ、意識的な事柄に他ならないのです。

イエス様は次に、「世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。」(17:6)と弟子たちのために祈ります。ことに、「彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものでからです。」(17:9)と弟子たちが、主なる神様のものであること、すなわち聖別されたものであることを告げます。そして、そうであるがゆえに、「聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです」(17:11)と祈ります。イエス様ご自身が、弟子たちを守ってくださるよう、そして彼らが、父と子が一体であるように、ひとつとなるようにと祈ってくださっているのです。

聖書日課を超えますが、イエス様は、「また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。」(17:20)と祈っています。弟子たちを超えて、未来に向けて、イエス様を信じる人々のために祈っておられるのですが。すなわち、今、教会を通して集められ、信じている、わたしたちのためにもイエス様は祈ってくださっているのです。そして、「あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。」(17:22)と語ります。つまり、過去の弟子たちと同じように、今、信じるわたしたちも、イエス様から栄光を与えられ、一つとなるように祈られているのです。

17章の祈りの最後に、イエス様は、「わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内にいるようになるためです。」(17:26)と語ります。イエス様のこの祈りを通して、最終的に示されることとは、イエス様とは、過去も、今も、未来も、信じる人々を、主なる神様との「愛」の中においてくださる方であり、それゆえにその方を通して、信じる者はすべて一つとなるということです。そして、それは預言者を通して主なる神様が語られた言葉、「わたしは国々の間にわが栄光を現し、国々はすべてわたしの行う裁きと、彼らの上に置くわたしの手を見る。その日から後、イスラエルの家はわたしが彼らの神、主であることを知るようになる」(エゼ39:21-22)と本質的に同じです。ここにある預言者の言葉に、「愛」という表現はありませんが、主なる神様のイスラエルに対する、そしてすべての被造物に対する意思是、愛に他ならないからです。愛において、主なる神様の栄光が示されるからです。

最も大切なことは愛である、このような言説は、言われ続けた事柄です。しかし、何かを考え実行する上で基として、忘れてはならないことです。愛を忘れる時、また愛を勘違いするとき、人間は過ちを犯します。しかし、その当たり前前のことを考え、その具体化を試行錯誤続けるのが教会です。この世界が近い未来にどのようなになるのか、誰にもわかりません。しかし、変わらない主なる神様の愛に守られ導かれ歩むとき、かならず希望があります。わたしたちの基は天にあるからです。